

# 自己点検書作成の手引き

2001 年度版

2001 年 7 月 31 日 基準・試行委員会承認

2001 年 10 月 2 日 基準・試行委員会修正

日本技術者教育認定機構

〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20

建築会館 6F

Tel. 03-5439-5031

Fax. 03-5439-5033

E-mail [accreditation@jabee.org](mailto:accreditation@jabee.org)

URL:<http://www.jabee.org>

# 目 次

自己点検表	----- 1
点検項目と点検基準	----- 2
自己点検書の作成に当って	----- 3
. はじめに	----- 3
. 背景となる情報	----- 4
. 自己点検結果を下した根拠、具体的改善策と改善目標の提示	----- 4
1. 学習・教育目標	----- 4
2. 学習・教育の量	----- 6
3. 教育手段	----- 6
3.1 入学者選抜方法	----- 6
3.2 教育方法	----- 7
3.3 教育組織	----- 8
4. 教育環境	----- 8
4.1 施設・設備	----- 9
4.2 財 源	----- 9
4.3 学生への支援体制	----- 9
5. 学習・教育目標達成度の評価と証明	----- 10
6. 教育改善	----- 10
6.1 教育点検システム	----- 10
6.2 継続的改善	----- 11
添付資料 1 学習・教育目標と基準 1 の ( 1 ) との対応	----- 12
添付資料 2 総学習保証時間とのその内訳	----- 13
添付資料 3 各学習・教育目標〔( A )( B )( C )                      〕を達成 するために開講されている授業科目の時間数	----- 14
添付資料 4 教員個人データ	----- 15
添付資料 5 教員一覧表	----- 19
添付資料 6 教員の担当している教育科目と活動状況	----- 20
添付資料 7 学習・教育目標達成度の評価基準	----- 21

# 自 己 点 検 表

表 2 の点検項目について点検基準に基づいて自己点検した点数（レベルの数字 1～5）を表 1 に記入して下さい。この表の作成に当たっては、3 頁以降の「自己点検書の作成に当たって」もご参照下さい。

表 1 点検項目に関する自己点検結果

点 検 項 目		点数（1～5）
学 習 ・ 教 育 目 標		
学 習 ・ 教 育 の 量		
教育手段	入学者選抜方法	
	教 育 方 法	
	教 育 組 織	
教育環境	施設・設備	
	財 源	
	学生への支援体制	
学習・教育目標達成度の評価と証明		
教育改善	教育点検システム	
	継 続 的 改 善	

表 2 点検項目と点検基準

点検項目	学習・教育目標	学習・教育の量	教育手段			教育環境			学習・教育目標達成度の評価と証明	教育改善	
			入学者選抜方法	教育方法	教育組織	施設・設備	財源	学生への支援体制		教育点検システム	継続的改善
点検基準	(1) 認定基準の基準1の(1)に示されている知識・能力〔(a)～(h)〕を全て網羅した具体的な学習・教育目標が設定され、公開されていますか。	(1) 当該プログラムの修了生は、4年間に相当する学習を行い、124単位以上を取得し、学士の学位を得ていますか	(1) 学習・教育目標を達成するために必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な選抜方法が公開され、実施されていますか。	(1) カリキュラムは学習・教育目標を達成するように設計され、両者の対応が公開されていますか。	(1) 学習・教育目標を達成するために設計されたカリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育効果をもたせられる能力を持った教員の数は満たされていますか。また、教育支援体制が存在していますか。	(1) 学習・教育目標を達成するにふさわしい教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩設備、食堂などが整備されていますか。	(1) 学習・教育目標を達成するにふさわしい施設・設備を整備し、維持し、運用するのに必要な財源確保への取り組みが公開され、実施されていますか。	(1) 教育環境に関して、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮するシステムとプロセスが公開され、実施されていますか。	(1) 教員の立場から、学習・教育目標がどの程度達成され、どこまで教育効果が上がっているかを定量的に評価するための評価基準が作成され、それに基づく評価が実施されていますか。	(1) 学習・教育目標達成度の評価に基づいて学習・教育目標を見直し、教育手段、教育環境等を改善し、不断の向上を図るための教育点検システムとプロセスが公開されていますか。	(1) 学習・教育目標達成度の評価に基づいて学習・教育目標、教育手段、教育環境、学習・教育目標達成度の評価方法、教育点検システムを改善してゆくための具体的なかつ継続的な方策が講じられ、それをいつまでにどこまで成し遂げるかの改善目標が示されていますか。
レベル	(2) 当該高等教育機関の伝統、資源、卒業生の活躍分野などを考慮して特色を出す努力がなされていますか。	(2) 当該プログラムの修了生は、2000時間以上（1時間は正味の60分です）の総学習保証時間（講義、実験、演習などで教員と接している時間と研究室等で勉学、研究などを行っていることが証明できる時間の和）を経験していますか。この時間には、300時間以上の人文科学、社会科学等（語学教育を含む）、300時間以上の数学、自然科学、情報技術および1000時間以上の専門技術に関する学習・教育時間を含んでいなければなりません。	(2) 他の高等教育機関等から学生を編入させる場合には、その具体的な選抜方法が公開され、実施されていますか。	(2) カリキュラムの設計に基づいて作成されたシラバスには、各科目の位置付けを十分に意識した学習・教育内容とその教育方法および成績の評価方法が公開され、実施されていますか。	(2) 教員の資質向上を図る仕組み（ファカルティ・ディベラップメント）が公開され、それに関する活動が行われていますか。	(2) 教員の教育に関する貢献の評価方法が公開され、実施されていますか。	(2) 教員の教育に関する貢献の評価方法が公開され、実施されていますか。	(2) 学生にも学習・教育目標に対する自分自身の達成度を評価させ、学習に反映させていますか。	(2) 学生にも学習・教育目標に対する自分自身の達成度を評価させ、学習に反映させていますか。	(2) 教育点検システムを構成する会議や委員会等のメンバーの構成は適切ですか。	(2) 教育点検システムを構成する会議や委員会等の恒常的な活動記録が公開されていますか。
	(3) 学習・教育目標が社会の要求や学生の要望を考慮して決定されていますか。		(3) 他の高等教育機関等から編入生が他の高等教育機関等で取得した単位の互換性を確認するプロセスが公開され、実施されていますか。	(3) 学生が他の高等教育機関等で取得した単位の互換性に対する評価方法が公開され、実施されていますか。	(3) 教員の教育に関する貢献の評価方法が公開され、実施されていますか。	(3) 教員の教育に関する貢献の評価方法が公開され、実施されていますか。	(3) 教員の教育に関する貢献の評価方法が公開され、実施されていますか。	(3) その他の方法（外部試験、修了生へのアンケート、就職先からの評価などが考えられる）を含む総合的な達成度評価が行われていますか。	(3) その他の方法（外部試験、修了生へのアンケート、就職先からの評価などが考えられる）を含む総合的な達成度評価が行われていますか。	(3) 教育点検システムを構成する会議や委員会等の恒常的な活動記録が公開されていますか。	(3) 教育点検システムを構成する会議や委員会等の恒常的な活動記録が公開されていますか。
1	(1) 以下すべてが満たされていない。	(1)、(2)とも満たされていない。	(1) 以下すべてが満たされていない。	(1) 以下すべてが満たされていない。	(1) 以下すべてが満たされていない。	全く満たされていない。	全く満たされていない。	全く満たされていない。	(1) 以下すべてが満たされていない。	(1) 以下すべてが満たされていない。	全く満たされていない。
2	(1) は大体満たされているが、(2) 以下が不十分である。		(1)、(2)、(3)のうち一つは大体満たされているが、他は不十分である。	少なくとも(1)と(2)のうち一方が満たされていない。	(1)、(2)、(3)、(4)のうち一つは満たされているが、他の三つは不十分である。	少し満たされている。	少し満たされている。	少し満たされている。	少なくとも(1)と(4)のうち一方が満たされていない。	(1) は大体満たされているが、十分ではない。	少し満たされている。
3	(1) は満たされているが、(2) 以下が不十分である。		(1)、(2)、(3)のうち一つは満たされているが、他の二つは不十分である。	(1)と(2)は満たされているが、(3)と(4)は不十分である。	(1)、(2)、(3)、(4)のうち二つは満たされているが、他の二つは不十分である。	中程度に満たされている。	中程度に満たされている。	中程度に満たされている。	(1)と(4)は満たされているが、(2)と(3)は不十分である。	(1) は満たされているが、(2)と(3)は不十分である。	中程度に満たされている。
4	(1) は満たされている。(2)と(3)のうち一方は満たされている。		(1)、(2)、(3)のうち二つは満たされているが、他の一つは不十分である。	(1)と(2)は満たされているが、(3)と(4)のうち一方が不十分である。	(1)、(2)、(3)、(4)のうち三つは満たされているが、他の一つは不十分である。	大体満たされている。	大体満たされている。	大体満たされている。	(1)と(4)は満たされているが、(2)と(3)のうち一方が不十分である。	(1) は満たされているが、(2)と(3)のうち一方が不十分である。	大体満たされている。
5	(1)～(3)まですべてが満たされている。	(1)、(2)とも満たされている。	(1)～(3)まですべてが満たされている。	(1)～(4)まですべてが満たされている。	(1)～(4)まですべてが満たされている。	満たされている。	満たされている。	満たされている。	(1)～(4)まですべてが満たされている。	(1)～(3)まですべてが満たされている。	満たされている。

# 自己点検書の作成に当って

## I. はじめに

技術者教育プログラムの審査・認定は、自己点検書の審査と実地訪問による審査（実地審査）を通して、日本技術者教育認定基準（以下、単に認定基準という）を満たしているかどうかを判定することにより行われます。

この認定基準は、

- (1) 認定基準を満たしている技術者教育プログラムを公表することで、認定された技術者教育プログラムの修了生が、将来グローバルな立場で技術業等につくために必要な教育を受けていることを社会に知らせる、
  - (2) 技術者教育の質の継続的改善・向上を図る、
- ことを主な目的として策定されています。

したがって、審査・認定は、とくに下記の4点を重視して行われますので、これらの点に留意して自己点検して下さい。

- (1) 当該技術者教育プログラムにおいて、認定基準を満たす具体的な学習・教育目標（単に「教育目標」とせず、「学習・教育目標」としたのは、“教員が教育目標を達成する”という視点より、“学生が学習目標を達成する”という視点の方が重要である、という認識からである）を設定・公表し、その学習・教育目標を達成した学生のみをその技術者教育プログラムの修了生としているか（Plan）。
- (2) 当該技術者教育プログラムは、学則、パンフレット、シラバス等および自己点検書に記載されている通りに実施されているか（Do）。
- (3) 当該技術者教育プログラム修了生が身につけた知識と能力の程度は、社会の要請する水準を満足しているか（ただし、この水準は、少なくとも技術者教育の国際的相互承認等で支障のない程度でなければならない。高等教育機関側で主張する水準と審査・認定側の主張するそれとが異なる場合には、関係者で十分意見交換し、最終的には認定委員会の判断に従う）（Check）。

認定の目的の一つが技術者教育の質の保証である。すなわち、認定された技術者教育プログラムの学習・教育目標の水準が技術者に期待される学士レベルの基礎教育として妥当なものでなければならない。この水準は、分野によって異なり、また時代とともに変化する。したが

って、これを記述して明示することは困難である。しかし、審査・認定作業を通じて、高等教育機関側と審査・認定側が描く水準が次第に狭い範囲に収斂し、結果として共通の水準による教育の質の保証が実現されることが期待される。

- (4) 当該技術者教育プログラムの継続的改善・向上システムが正常に機能しているか (Action)。

この自己点検書は、実地審査前に該当する学協会の審査委員会に提出されなければなりません。

なお、第三者機関等で十分に審査されていると審査委員会が判断した点検項目については、当該審査を省略できますので、これに該当する場合には関係資料を提示して下さい。また、自己点検書の内容は、審査・認定のみに用いられ、当該高等教育機関の了解がない限り公表されないことを申し添えます。

## II. 背景となる情報

前回の認定で認定委員会から指摘された事項とそれに対して取った対応策を記述して下さい (初めて審査を受ける場合には不要です)。

## III. 自己点検結果を下した根拠、具体的改善策と改善目標等の提示

表 1 に示されている自己点検結果、自己点検結果を下した根拠、その結果、現時点でも認定基準を満たしていると推定されるが、将来さらなる向上を目指して改善を図りたいと判断した場合には、その具体的改善策とそれをいつまでにどこまで成し遂げるかの改善目標を、以下に示すそれぞれの点検項目について、その中に示されている指示にも配慮して、記述して下さい。

- 具体的改善策と改善目標の記述については、“可能な限り”で結構です。

### 1. 学習・教育目標

- (1) 認定基準の基準 1 の(1)に示されている知識・能力〔(a)～(h)〕を全て網羅した具体的な学習・教育目標〔(A) , (B) , (C) ,                      〕が設定され、公開されていますか。

- 基準 1 の(1)に示されている知識・能力〔(a)～(h)〕は、当該プログラムの修了生が具備すべき知識・能力の基本的枠組みを与えるもので、それらをそのまま学習・教育目標にするという意味ではありません。したがって、少なくともこの枠組みの中で、(a)～(h)の意図するところをすべて含み、評価可能な“適切な”具体的学習・教育目標を設定することが必要です。“適切な”という意味は、社会の要求（雇用者、保護者、学生、技術者資格制度等からの期待・要求）、学生の資質、当該高等教育機関の伝統、特徴や資源に照らし合わせて妥当な、ということで、これには水準も含まれます。「枠」がある程度大きく取られ、かなり抽象的に表現されているのは、プログラムの多様性を阻害しないためです。
- (a)～(h)の意図するところは、「認定および審査方法」に記載されていますので、ご参照下さい。
- (a)～(h)で要求されている知識・能力は、教養教育でも専門教育でも涵養することが可能です。
- 個々の学習・教育目標が(a)～(h)で要求されている知識・能力を複数同時に含んでいても構いません。
- 上記のことに十分配慮して、当該技術者教育プログラムの学習・教育目標を以下に列挙して下さい。

(A) - - -

(B)

(C) - - -

！  
！  
！  
！

- 個々の学習・教育目標と基準 1 の（１）で要求されている知識・能力(a)～(h)との対応が一目でわかるように、両者の対応表（添付資料 1）を作成して下さい。

(2) 当該高等教育機関の伝統、資源、卒業生の活躍分野などを考慮して特色を出す努力がなされていますか。

- ここでいう“特色”とは、第 1 に、上記（１）の基本的枠組みの中での具体的な学習・教育目標の設定に当たって当該高等教育機関の特色を出して頂きたい、ということです。認定を得るためには最低限これだけは必要です。

第 2 に、当該高等教育機関のさらなる特色を出すために、上記の基本的枠組みを越えて、(a)～(h)以外の知識・能力に関する学習・教育目標を設定する努力が望まれる、ということです。

- (a)～(h)以外の知識・能力に関する学習・教育目標を設定している場合には、(A)(B)(C) - - - の続きとして、記述して下さい。
- これらも添付資料 1 に付け加えて下さい。

(3) 学習・教育目標が社会の要求や学生の要望を考慮して決定されていますか。

- 後述する「6.1 教育点検システム」で検討されている場合には、それとの関連で記述してください。

自己点検結果を下した根拠：

具体的改善策：

改善目標：

## 2. 学習・教育の量

- (1) 当該プログラムの修了生は、4 年間に相当する学習を行い、124 単位以上を取得し、学士の称号を得ていますか。
  - 当該プログラムの修了生は、大学学部等の卒業生であることが条件です。
- (2) 当該プログラムの修了生は、2000 時間以上（1 時間は正味の 60 分です）の総学習保証時間（講義、実験、演習などで教員と接している時間と研究室等で勉強、研究などを行っていることが証明できる時間の和）を経験していますか。この時間には、300 時間以上の人文科学、社会科学等（語学教育を含む）、300 時間以上の数学、自然科学、情報技術および1000 時間以上の専門技術、に関する学習・教育時間を含まなければなりません。
  - 総学習保証時間に関する表（添付資料 2）を作成して下さい。

自己点検結果を下した根拠：

具体的改善策：

改善目標：

## 3. 教育手段

### 3.1 入学者選抜方法

我が国において、入学者選抜方法は大きな改善目標の一つであるとの認識から、敢えて点検項目としています。

- (1) 学習・教育目標を達成するために必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な選抜方法が公開され、実施されていますか。
  - 実施上の問題点などがあればそれも記述して下さい。
- (2) 他の高等教育機関等から学生を編入させる場合には、その具体的な選抜方法が公開され、実施されていますか。
  - 具体的な選抜方法と実施方法を記述して下さい。



- (3) 他の高等教育機関等からの編入生が他の高等教育機関等で取得した単位の互換性を確認するプロセスが公開され、実施されていますか。

- 具体的なプロセスを記述して下さい。

自己点検結果を下した根拠：

具体的改善策：

改善目標：

### 3.2 教育方法

- (1) カリキュラムは学習・教育目標を達成するように設計され、両者の対応が公開されていますか。

- コア・カリキュラムを示し、さらにそれぞれの学習・教育目標〔(A)〕、〔(B)〕、〔(C)〕、を達成するための履修科目の流れを示して下さい。

すべての学習・教育目標を達成するために履修することが必要な科目の流れ（学生の選択に依存する科目は、“選択科目”とか“人文科学，社会科学等科目”のように一括表示してもよい）

- 各学習・教育目標〔(A)〕、〔(B)〕、〔(C)〕、を達成するために開講されている授業科目の授業時間数を示す表（添付資料3）を作成してください。
- 各学習・教育目標ごとに、それを達成するために開講されている授業科目のシラバスをまとめておいてください。
- 審査の目的は、基準が満たされているかどうかを判定することです。したがって、各学習・教育目標〔(A)〕、〔(B)〕、〔(C)〕、を達成することにより、その総計として基準1の(1)で要求されている知識・能力〔(a)～(h)〕も満たされていることを示して頂くことが必要です。添付資料1に 印と 印で示した両者の対応関係を、基準1の(1)で要求されているそれぞれの知識・能力〔(a)～(h)〕ごとに、審査員が理解しやすいようにより具体的に文書で説明してください。

- (2) カリキュラムの設計に基づいて作成されたシラバスには、各科目の位置付けを十分に意識した学習・教育内容とその教育方法および成績の評価方法が公開され、実施されていますか。

- シラバスを示し、見解を記述して下さい。

- (3) 学生が他の高等教育機関等で取得した単位の互換性に対する評価方法が公開され、実施されていますか。

- (4) 教育方法に関して、学生の理解を助け、勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮するシステムとプロセスが公開され、実施されていますか。

- 指導教官制，チューター制などの実施もここに含まれます。

自己点検結果を下した根拠：

具体的改善策：

改善目標：

### 3.3 教育組織

- (1) 学習・教育目標を達成するために設計されたカリキュラムを適切な教育方法によって展開し，教育効果を上げうる能力を持った教員の数は満たされていますか。また，教育支援体制が存在していますか。
  - 教員個人データ（添付資料 4）と教員一覧表（添付資料 5）に基づいて記述して下さい。添付資料 5 は，添付資料 4 のデータから事務的に作成可能です。人文科学，社会科学と語学の担当教員および数学，自然科学と情報技術の担当教員については，学習・教育目標の達成に必要であり，かつある一定数以上の学生が受講している科目担当の教員に限定して頂いても結構です。その判断は各高等教育機関にお任せします。
  - 教員の負担が適切かどうかを判断するために，当該プログラムを担当している教員（専任教員のみ）の活動状況を示す表（添付資料 6）を作成し，見解を記述してください。添付資料 6 は，添付資料 4 のデータから事務的に作成可能です。
  - 教育支援体制を示して下さい。
- (2) 教員の資質向上を図る仕組み（ファカルティ・ディベラップメント）が公開され，それに関する活動が行われていますか。
- (3) 教員の教育に関する貢献の評価方法が公開され，実施されていますか。
  - 教員の資質向上を図る仕組み，教員の教育に関する貢献の評価方法，後述の学習・教育目標達成度の評価方法などについては，各高等教育機関が独自に適切な手法を開拓し，また講習会やセミナーなどに参加して常によりよいものに改善していく必要があります。
- (4) カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし，教育効果を上げ，改善するための教員間連絡ネットワーク組織が公開され，機能していますか。

自己点検結果を下した根拠：

具体的改善策：

改善目標：

#### 4. 教育環境

教育環境は、財政に関わる問題であり、簡単に改善することは困難ですが、実態を高等教育機関関係者およびそれ以外の人々に広く認識して頂くことは今後の改善にとって大切なことです。改善するにしても困難な問題点があれば、それも記述して下さい。

##### 4.1 施設・設備

- (1) 学習・教育目標を達成するにふさわしい教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩設備、食堂などが整備されていますか。

自己点検結果を下した根拠：

具体的改善策：

改善目標：

##### 4.2 財 源

- (1) 学習・教育目標を達成するにふさわしい施設・設備を整備し、維持し、運用するのに必要な財源確保への取り組みが公開され、実施されていますか。

自己点検結果を下した根拠：

具体的改善策：

改善目標：

##### 4.3 学生への支援体制

- (1) 教育環境に関して、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮するシステムとプロセスが公開され、実施されていますか。
- 例えば、自習するための図書、コンピュータシステム、シラバスが電子化されている場合にはそのアクセス法の整備など学生が能動的に学習するための施設・設備や学費と住居の支援体制など。

自己点検結果を下した根拠：

具体的改善策：

改善目標：

## 5．学習・教育目標達成度の評価と証明

- (1) 教員の立場から，学習・教育目標がどの程度達成され，どこまで教育効果が上がっているかを定量的に評価するための評価基準が作成され，それに基づく評価が実施されていますか。
  - ・ 各学習・教育目標の達成度を定量的に評価する評価基準を添付資料 7 に記入してください。
  - ・ 評価基準がどのような根拠で作成されたかの妥当性や評価基準が厳格に適用され，評価されているかどうかは，当該プログラムの修了生の知識・能力のレベルを保証する上できわめて重要です。両者に緩みを生じないように恒常的に検討・監視する組織の設置が必要です。
- (2) 学生にも学習・教育目標に対する自分自身の達成度を評価させ，学習に反映させていますか。
  - ・ 学生に達成目標をよく理解させるとともに，教員の評価結果（試験問題の正解や採点結果，レポートの採点・チェック結果など）を知らせて，達成度を認識させ，必要に応じて再学習させることなどです。
- (3) その他の方法（外部試験，修了生へのアンケート，修了生の就職状況，就職先からの評価などが考えられる）を含む総合的な達成度評価が行われていますか。
- (4) 学習・教育目標の総合的な達成度を判定する評価基準を満たした学生のみを当該プログラムの修了生としていますか。
  - ・ 実地審査の時に，これを証明する証拠（シラバス，試験問題とその答案，演習問題とその回答，実験のレポート，卒業論文，成績表など）を提示して下さい。とくに，合否のボーダーライン上にある資料が審査の対象になります。これらの資料には，ラベルを付けるなどして，審査しやすいように工夫・整理しておいて下さい。

自己点検結果を下した根拠：

具体的改善策：

改善目標：

## 6．教育改善

### 6.1 教育点検システム

- (1) 学習・教育目標達成度の評価に基づいて学習・教育目標を見直し，教育手段，教育環境等を改善し，不断の向上を図るための教育点検システムとプロセスが公開されていますか。
- 教育点検システム（システムを構成する会議や委員会等の流れ図）を示し，そのシステムとプロセスが機能していることを説明してください。
  - 「5. 学習・教育目標達成度の評価と証明」の中の（1）に関連する「評価基準の妥当性や厳格な評価」が実施されているかなどを検討する恒常的な組織との関係についても説明を加えてください。
- (2) 教育点検システムを構成する会議や委員会が，社会の要求や学生の要望を反映できる適切な構成になっていますか。
- 会議や委員会等の構成メンバーとその役割を示してください。
  - 必要に応じて，企業など外部からのメンバーを加えることが望めます。
- (3) 教育点検システムを構成する会議や委員会等の恒常的な活動記録が公開されていますか。

自己点検結果を下した根拠：

具体的改善策：

改善目標：

## 6.2 継続的改善

- (1) 学習・教育目標達成度の評価に基づいて学習・教育目標，教育手段，教育環境，学習・教育目標達成度の評価方法，教育点検システムを改善してゆくための具体的かつ継続的な方策が講じられ，それをいつまでにどこまで成し遂げるかの改善目標が示されていますか。
- これについては，すでに各項目ごとに記述されていますが，さらに付け加えることがありましたら，ここで記述してください。

自己点検結果を下した根拠：

具体的改善策：

改善目標：

## 添付資料 1 学習・教育目標と基準 1 の(1)との対応

下表において，各学習・教育目標〔(A), (B), (C) - - - 〕が基準 1 の(1)の知識・能力〔(a)～(h)〕を主体的に含んでいる場合には 印を，付随的に含んでいる場合には 印をそれぞれ該当する欄に記入して下さい。

基準 1 の(1)の 知識・能力 学習・教育目標	(a)	(b)	(c)	(d)				(e)	(f)	(g)	(h)
				(1)	(2)	(3)	— — —				
(A)							— — —				
(B)											
(C)											
(D)											
(E)											

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養  
 (b) 技術の社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など，技術者として社会に対する責任を自覚する能力（技術者倫理）  
 (c) 数学，自然科学，情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力  
 (d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力  
 (e) 種々の科学・技術・情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力  
 (f) 日本語による論理的な記述力，口頭発表力，討議などのコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力  
 (g) 変化に対応して自主的，継続的に学習できる能力  
 (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め，まとめる能力

(d)の  $\left\{ \begin{array}{l} (1) \\ (2) \\ (3) \\ | \\ | \\ | \end{array} \right\}$  : 分野別要件で要求されている知識・能力を記述して下さい。  
 なお，表中 (d) の表示法は一例であって，分野によっては変更されても構いません。

$\left\{ \begin{array}{l} (A) \\ (B) \\ (C) \\ (D) \\ (E) \\ | \\ | \\ | \end{array} \right\}$  : 当該プログラムの各学習・教育目標を記述して下さい。

## 添付資料2 総学習保証時間とその内訳

	時 間 <sup>1</sup>
人文科学，社会科学等に関する教育 <sup>2</sup> (語学教育を含む)	
数学，自然科学，情報技術 に関する教育 <sup>3</sup>	
専門技術に関する教育 <sup>4</sup>	
総学習保証時間 <sup>5</sup>	

1：1時間は60分を意味します。時間単位で数字を記入してください。

2：300時間以上が必要です。

3：300時間以上が必要です。

4：1000時間以上が必要です。

5：2000時間以上が必要です。

講義，演習，実験，研究，調査等の  
内訳の時間も示して下さい。

添付資料 3 各学習・教育目標 [ (A) , (B) , (C) , - - - ] を達成  
するために開講されている授業科目の時間数

授業科目名	単位数	学年・学期	講義・演習 実験の別	時間数 ( 時間 )				
				(A)	(B)	(C)	- - -	合計
( 記入例 ) 物理工学概論	2	1 ・	講義	6	9	7.5		22.5
<div style="text-align: center;"> </div> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="text-align: center;"> </div>								
総 計								

正味の時間を記入して下さい。例えば，90 分（1.5 時間）授業を 12 週行っている場合には合計時間は 18 時間，15 週行っている場合には 22.5 時間となります。



## 添付資料 4 教 員 個 人 データ

1. 氏名(年齢) :
2. 所属・職名 :
3. 最高学位(取得年) :
4. 勤務形態(常勤・学内兼任・非常勤の別, 非常勤の場合は年間の勤務時間をカッコ書きして下さい) :
5. 経験年数 : 企業 ;      年, 公共団体 ;      年,  
他大学等教育・研究機関 ;      年  
現在の大学 ;      年  
合計 :      年
6. 技術者資格の有無と有の場合にはその種類と取得年(西暦) :
7. 担当教育科目

7.1 学部担当教育科目(四年制大学の学部あるいは専攻科を含む短期大学あるいは専攻科を含む高等専門学校で担当しているすべての教育科目を記入して下さい。)

- 流体力学(学部2年, 期, 2単位, 1名)のように記す。

↑ 本人を含む担当教員数

7.2 大学院担当教育科目(大学院で担当しているすべての教育科目を記入して下さい。)

- 機械エネルギー工学特論(大学院前期課程 1年, 期, 2単位, 2名)のように記す。

↑ 本人を含む担当教員数

### 8. 活動状況

教 育 :      %  
研 究 :      %  
その他 :      %

主として高等教育機関の管理・運営活動や社会的活動がこれに当たります。

- 仕事をしている時間(睡眠, 食事, 通勤, 休憩時間は含まない)の内訳を百分率で示し, 全体で 100% になるようにして下さい。大体の数字で結構です。

## 主 な 業 績

下記の論文，総説・解説等，著書，作品，特許は担当教育科目の担当がふさわしいかどうかを判断するための項目です。この点を念頭において 10 編以内で記載して下さい。また，すべての項目において新しいものほど前に記載して下さい。

### 9. 論 文

(1) 著者名：「タイトル名」，雑誌名，30(1999)10，PP. \_\_\_\_ ~ \_\_\_\_ .

⋮

⋮

⋮

⋮

著者名の記載は3名までとし，  
その他の者は，他～名とする

(巻) (年) (号)

(ページ数)

(2)

⋮

### 10. 総説・解説等

(1) 記載方法は論文の場合に準ずる。

(2)

⋮

### 11. 著 書

(1) 著者名：「書名」，出版社，発行年月，PP. \_\_\_\_ ~ \_\_\_\_ . - - - 単行本の場合

⋮

⋮

⋮

著者名の記載は3名までとし，  
その他の者は，他～名とする

(西暦)

(本人が執筆したページ数)

(2) 著者名：「タイトル名」，「書名」，出版社，発行年月，PP. \_\_\_\_ ~ \_\_\_\_ . - - - 便覧等の場合

⋮

⋮

⋮

著者名の記載は3名までとし，  
その他のものは，他～名とする

(西暦)

(本人が執筆したページ数)

### 12. 作 品

(1) 作者名：「作品名」，所在地，発行年月

⋮

⋮

⋮

（作者の記載は 3 名  
までとし、その他の  
者は、他～名とする）（県・市  
あるいは郡）（西暦）

(2)

⋮

### 13. 特 許

(1) 発明者：「発明の名称」，出願国，登録番号，登録年月日

⋮

⋮

（発明者の記載は 3 名までとし，  
その他の者は，他～名とする）（西暦）

(2)

⋮

### 14. 教育活動

14.1 教育者として自己アピールしたい事柄（教育機関以外での教育活動も  
含む）

14.2 学内委員会等活動

14.3 学外委員会等活動

### 15. 学会活動等

15.1 研究者あるいは技術者として自己アピールしたい業績

## 15.2 各種役職（各種委員会等の委員も含む）

## 16．受賞など

## 添付資料5

## 教 員 一 覧 表

氏 名	年 齢	職 名	最高 学位 (取得年)	勤務形態 <sup>1</sup> ( 常勤 非常勤 学内兼任 )	経 験 年 数				技術者資格の有無と 有の場合にはその種類と 取得年(西暦)	担当教育科目 <sup>2</sup>
					企 業	公 共 団 体	他大学等 教育・研究 機関	現在の 大 学		

1 : 非常勤の場合は年間の勤務時間をカッコ書きして下さい。

2 : 四年制大学の学部あるいは専攻科を含む短期大学あるいは専攻科を含む高等専門学校で担当しているすべての教育科目を記入して下さい。

## 添付資料6 教員<sup>1</sup>の担当している教育科目と活動状況

教員名	職 名	担当している教育科目 <sup>2</sup> (学部・大学院等の別, 学年, 学期, 単位数, 本人を含む担当教員数)	活動状況 <sup>3</sup> (百分率)		
			教 育	研 究	その他 <sup>4</sup>

1 : 専任教員のみ

2 : 教員の負担が適切かどうかの判断材料となりますので, 学部や大学院等で担当しているすべての教育科目を記入して下さい。

流体力学(学部2年, 1期, 2単位, 1名), 機械エネルギー工学特論(大学院前期課程1年, 1期, 2単位, 2名), のように記す。

3 : 仕事をしている時間(睡眠, 食事, 通勤, 休憩時間は含まない)の内訳を百分率で示し, 全体で100%になるようにして下さい。大体の数字で結構です。

4 : 主として高等教育機関の管理・運営活動や社会的活動がこれに当たります。

添付資料7 学習・教育目標達成度の評価基準

学 習 ・ 教 育 目 標	評 価 基 準
(A) - - -	
(B) - - -	
(C) - - -	
<div></div> <div></div> <div></div>	<div></div> <div></div> <div></div>